

日本科学哲学会・科学基礎論学会
修士課程在学中または修了後2年以内の会員の投稿による
審査付きオンライン雑誌『新進研究者 Research Notes』
創刊のお知らせと投稿のおすすめ

2017年9月29日

刊行学会 日本科学哲学会

刊行協力学会 科学基礎論学会

日本科学哲学会・科学基礎論学会 会員各位

日頃は、私たち両学会の活動にご参加ご協力下さり、心よりお礼申し上げます。今年度より、**日本科学哲学会**を刊行者、**科学基礎論学会**を刊行協力者として、修士課程（博士前期課程）在学中、または同課程修了後2年以内の会員（**どちらの学会員であっても差し支えありません**）の投稿に基づく、審査付きオンライン雑誌『新進研究者 Research Notes』（英語名：*Japanese Student Research Notes of Philosophy of Science*）を創刊することとなりました。当面、毎年度一回ずつの公募と刊行を行います（活字刊行は予定していません）。

有資格会員のみならず、ぜひ奮ってご投稿下さるようお願いいたします。未会員であっても、修士課程在学中または修士課程修了後2年以内であれば、入会申し込みを行うとともに投稿の権利が認められます（下記【3】【提出資格】参照）。未会員の方は、ぜひこの機会に会員申し込みをなさるようお願いいたします。その他のみなさまにおかれましても、周囲の会員・未会員に本雑誌の創刊をご周知いただき、ぜひ投稿をご督促いただきますようお願いいたします。

【1】 刊行の趣旨

近年、若手研究者に対して、できるだけ早い段階から業績の刊行を行うことがますます強く期待されるようになってきています。こうした早期の段階での業績刊行は、若手研究者にとって、研究ソサエティの中で自らの位置を確立するためにきわめて有効であるだけでなく、研究のクォリティの速やかな高度化のためにも大いに望ましいことだと考えられます。このような事情に鑑みて、このたび、**若手会員、その中でも最も早期の段階の方たちの業績刊行の支援**を目的として、標記のようなオンライン雑誌を刊行することになりました。私たちが企図しているのは、**科学哲学・科学基礎論を志す若手研究者の登竜門**となる雑誌であり、掲載される各論考に認められるのは、一定のしかるべき完成度とともに、より中心的には、今後この分野におけるファースト・レートの論文にまで発展していく将来性です。

以上の企図を実現するため、私たちの従来雑誌では採用していない、本雑誌専用のいくつかのルールを置くこととします。以下を熟読し、よくご理解の上、ご投稿下さるようお願いいたします。

します。

[2] 公募論考の性格・構成と、審査の基本観点

[研究領域と使用言語] 本雑誌がカバーする研究領域は、日本科学哲学会の『科学哲学』、科学基礎論学会の『科学基礎論研究』・*Annals of the Japan Association for Philosophy of Science*と同様です。使用言語も、日本語の他、英語・ドイツ語・フランス語を可とします。

[公募論考の基本性格] 早期若手研究者の投稿しやすさを考慮して、本雑誌が公募する論考は、基本的に「研究報告」的な性格のものとし、すなわち、

- (1) 当該研究者が、i)これまで一定期間取り組み、ii)その結果、現在、ある程度、具体的な内容にまで成長しつつあり、iii)さらに、今後いっそうの展開を遂げることが期待できるような、そうした研究主題について、
- (2) できるだけ、当該研究者の独自の貢献、オリジナリティの所在を明確化しながら、
- (3) 本学会の会員をはじめとする広範な研究者ソサエティに対して、広く告知・アピールすることを目的として、
- (4) 的確・簡潔・正確に記述している論考、

ということです。本雑誌は、こうした条件を満たしている論考を、できるだけ多数掲載していく方針です。

[構成付きテンプレートと字数] 以上の趣旨を効率的に実現するため、本雑誌用のウェブ・ページ（近日開設予定—開設され次第、両学会のウェブ・ページ上、および会員 ML を通じて周知を行います）に、公募論考専用で作成したテンプレート（所定の目次構成を組み込んだ、Word 用及び Tex 用ファイル）を用意します。投稿者は、**公募期間中に、このテンプレートに書き込んで、本雑誌の受付用アカウントに送付してください。**

また字数は、研究報告的な論考であることを考慮し、またとりわけ、執筆および編集の負担軽減を目的として、**通常の学会誌掲載論文の半分程度**に設定しています

以上の2点について、詳しくは下記 [3] をご参照下さい。

[審査の体制・方法・基準] 審査は、**本雑誌の刊行委員会**により行われます（刊行委員会には、委員長と委員長補佐が置かれ、前者は、日本科学哲学会理事会において会員から選出、後者は、科学基礎論学会理事会において会員から選出、また審査は、基本的に、両学会の会員が担当する）。審査に際しては、**ダブル・ブラインド制**（投稿者にも査読者にも互いの名前を知らせない）を採用します。

審査の基本的な基準は、上記(1)－(4)に示した通りです。ただしさらに、本雑誌は、既述のように、最も早期の若手研究者からの投稿を歓迎しますので、

- (5) 現在までの研究成果が不十分であっても、**今後の発展が大いに期待できるもの**

については、評価を十分高くするという配慮を行います。

[業績上のカテゴリー区分について] 近年、研究者が業績の提示を行う際、各業績を一定のカテゴリーに分類するよう求められる（論文か、サーベイか、書評か、等々）ことがよくあります。本雑誌の掲載論考は、以下の特徴を有しますので、それを踏まえて分類を行って下さい。

i) 審査をえている、

ii) 基本的に、『科学哲学』における「研究ノート」に対応するレベルの論考である（『科学哲学』・『科学基礎論研究』における「論文」、*Annals of the Japan Association for Philosophy of Science* における「paper」に対応するものではない）。

[3] 投稿規程と公募要領の概要

投稿規程については、本雑誌用のウェブ・ページをご確認ください。

公募要領は、毎年 11 月初旬にお知らせします。

[4] 注意事項

以上の他に、本雑誌の刊行趣旨に基づき、当面、以下のような投稿規程を置きますので、よく留意して下さい。

- ・ 投稿論考は、**単著のみ**とする（個人的な業績の蓄積を主目的とするため。ただし、内容的に他の研究者との共同研究であっても差し支えない。その場合、そのことを明示し、自分の貢献部分をはっきりさせる）。

- ・ 各巻について、1 人の会員の投稿は **1 本のみ**とする（論考の内容的水準の確保と、編集作業の平滑化のため）。

- ・ 一度掲載された会員は、**次年度の公募時には投稿できない**（理由は同上）。

なお、本雑誌への投稿中に、**当該の投稿論考とは別の論考を『科学哲学』、『科学基礎論研究』、*Annals of the Japan Association for Philosophy of Science* へ投稿すること**（あるいは逆に、後者の投稿中に、前者への投稿を行うこと）は、差し支えありません。どちらも、それぞれの雑誌の投稿規程に従っていれば受け付けて審査します（ただし、**両論考の内容が大きく重複するならば、重複投稿と判断されますので、よく注意して下さい**）。

他方で、本雑誌が期待しているのは、既述の通り、掲載された論考が、その後いつその成長を遂げ、この分野で通用する一人前の論文に結実することです。この意味で、**本誌に掲載された論考を原型とし、本格的な学術論文にまで十分に発展させられた論考が、後に（より詳しく言えば、当該論考が掲載されている本雑誌の刊行よりも後に）、『科学哲学』・『科学基礎論研究』における「論文」、*Annals of the Japan Association for Philosophy of Science* における「paper」のカテゴリーに投稿されることは、もちろん差し支えないだけでなく、**

大いに**推奨**されています。この点、よくご理解下さるようお願いいたします。

[5] 最後に

以上の要領で、来る 11 月初旬から、公募を開始する予定です。できるだけ多くの方の参加をお待ちしています。奮ってご投稿下さい。

以上